

技術士を取得して 受注者と対等な立場に

— 技術士（総合技術監理部門（港湾及び空港）） —

1. 受験の動機・経緯

私は平成15年に国土交通省に入省後、主に港湾、航空分野に携わっており、技術士（建設部門）を平成26年度、技術士（総合技術監理部門）を平成27年度に取得しました。総合技術監理部門の資格を取得した際は、国土交通大臣政務官の秘書官という少し特殊なポストに所属していました。

技術士（建設部門）の受験の動機としては、地方整備局で工事やコンサル業務の発注担当をしていた際に、受注者である管理技術者が技術士の資格を持っているのに対し、発注者が資格を持っていないことについて“このままで良いのか”という思いがあり、公務員も質の高い技術力を持つ必要性を感じていました。また、自分の役職が変わるにつれて、俯瞰的な視点で物事を考える必要性を感じ、建設部門を取得した後は、総合技術監理部門の取得を目指そうという思いを持つようになりました。

2. 学習スタンスと受験申込の留意点

試験勉強を開始したのは4月からですが、自分を追い込むためにも、試験日までの計画をま

ず作成しました。特に、総合技術監理部門は‘青本’を読み、理解する必要があるため、平日10ページ、休日20ページなどと大まかなスケジュールを作成し、達成できた日には判定欄に「○」をつけるなど進捗状況がわかるように自分なりに工夫をしました。

GW前に受験申込書を提出することを考えると、それまでに総合技術監理に求められる「5つの管理」の視点を理解する必要があります。私は、‘青本’と‘SUKIYAKI塾などの試験対策HP’などを見て学習しましたが、申込時点ではあまり良く分からないまま、「5つの管理」の視点から、課題や課題に対する提案等を記載したため、口頭試験では少し苦労しました。3月頃から試験対策を始めておけば、もう少しゆとりを持って対応することができたと思います。

3. 筆記試験の傾向と対策

筆記試験は択一式問題と記述式問題に分かれますが、いずれも過去問題を解いて知識を習得するよう心掛けました。択一式問題については過去問題を繰り返すことにより正答率なども上がってきました。

一方、記述式問題については、一見すると、問題文の意図がよくわからないものが多く、解答を作成するまでに時間がかかりますが、試験対策HPなどに掲載されている解説などを読み込み、論文作成の練習を行いました。可能であるなら、技術士の資格を取得した方などに作成した論文を添削してもらおうと非常に勉強になるかと思います。

4. 口頭試験における傾向と対策

筆記試験を合格できるとは思っていなかったため、合格通知が届いたときに、まずは情報収集を行い、口頭試験対策などのHPなどを参考にして、私は模擬面接を受けることにしました。

模擬面接では、自分の短所を把握できただけではなく、他の受講生のやりとりを聞くことにより、総合技術監理に関する理解が深まったように思います。また、模擬面接を踏まえて、過去の業務経験におけるトレードオフの観点やその際の対処方法などを整理し、想定問答を作成しました。

口頭試験の本番で戸惑うことがないように、準備した想定問答をもとに実際に人物相手に面接練習することにより、プレゼンテーション力は増していくと思います。

5. 資格取得後に役立ったこと

資格を取得したことにより、自分自身の技術力に少し自信を持つことができたように思います。また、いろんな方と名刺交換する際に、技術士の資格に触れていただけることが多く、話



観光庁 外客受入担当参事官付
外客安全対策室 室長

たかの あきら
高野 明

(取得した資格：技術士(総合技術監理部門)
港湾及び空港)
資格取得年度：平成27年度)

のきっかけとして重宝しています。

6. おわりに～受験者へのアドバイス等～

私は技術系の公務員であり、資格の取得により給与や手当が増額することはなく、昇進することはありませんが、受注者と同様に、発注者の立場として技術力を向上していく必要があると考えています。また、技術士を取得する際に得た知識や文章を構成する能力などは実務においても役に立つ機会が多いと考えています。

今回、執筆する機会を頂きましたが、合格したのが4、5年前ということもあり、試験の制度自体が変わっていることや、そもそもの記憶が薄れている懸念があります。少しでも試験の合格の一助になれば幸いです。